



# 春南中だより

春日部市立春日部南中学校 令和4年度 第7号 令和4年11月1日発行



うかつあやまり

学 校 長

日増しに朝夕の冷え込みを感じ、遠くの景色が目にはっきりと映し出される季節となりました。学校では、生徒会の選挙も行われ3年生から1、2年生へ、その任をバトンされました。また、過日行われました文化祭では、市民文化会館をお借りして全校生徒が心へ響きわたる合唱を披露、さらに先週の土曜日、授業参観においても多くの方々にご来校いただき、誠にありがとうございました。

大都市江戸にあったとされる、互いを思いやり、共に気持ちよく生活するための知恵である「江戸しぐさ」。その洗練された江戸しぐさの一つであるのが、「うかつあやまり」。

「うかつあやまり」というのは、例えば混雑した中で足を踏まれたら、踏んだ相手を徹底的に責めないで、「自分がうかつにそこに足を出していたからいけない」と考え「こちらも不注意ですみません」と謝るしぐさです。そうすると、相手もさらに「大丈夫ですか」本当に申し訳ないという気持ちになったり、周囲にいる人の気持ちも柔らかくなったりします。そして、お互いにこれからは気を付けようと反省材料になったりもします。相手の心情を推し量ることによって円滑な人間関係が構築できたり、心の通い合いが生じたりするものです。

ある海外滞在者の文章に「一人で海外旅行ロンドンに行ったが、現地の人は皆“イキ”だった。例えば人混みの駅では何度も席を譲ってもらった。また、ドアの所では、前の人が開けて待ってくれる。こういう行為をあちらでは“GENTLE”というのだろう。あるいは“SMART”かもしれないが、重要なことはそれを自然にさっとする」と書かれていました。相手を推し量る行為として、自然に体が動く「しぐさ」です。

「素敵（ステキ）」という言葉は実は江戸時代からあった言葉です。「素」は、「すばらしい」という意味で「素敵」は敵ながらすばらしいと相手に敬意を表す言葉でした。今の日本の社会現象は「不幸は他人のせい」という考え方があり、相手をとことん責めまくり、そのたびに謝っていたらキリがないという考え方もあるかもしれません。しかし、そこからは憎悪の感情しか生まれません。

秋は人の心を素直にさせると言います。思いやりの心は見えないが、思いやりのしぐさは見えます。子供が横断歩道を渡るタイミングを待っていると運転手が気付いて車を止める、次の瞬間その子は一礼して道を渡って行くしぐさ。交通事故の現場にて、手分けして救急車要請などを必死になって周りの人に頼む本校の生徒たち。スポーツの世界大会にて、海外から来た観客が試合応援後の会場で、大きな袋を手に持ち席周辺のゴミを拾っている姿。自分の不注意や相手への思いやり、このような事に気付くと素直な心は向上心へと変わります。

孔子（古代中国の思想家・哲学者）の言葉の中に『過あやまちて改めざる、これを過ちあらたという』〔論語 衛霊公：過ちを犯おかしたことに気付きながらも改めようとしない、これこそ本当の過ちというべきである〕とあります。

